

履物設計の為の足部計測(第4報) — 男女幼児の個人追跡的研究 —
 久留米信愛女短大 ○今松禮子 福岡女大政 山本昭子

目的 ここ10数年間における日本人の体位の向上はめざましいものがあり、幼児の履物の設計や選取にあたっては個人追跡的資料を得ることがせいとも必要なことと思われる。

そこで今回はこれらの観点から計測を行い、分析、考察を試みた。

方法 第2報*に報告した計測資料から3~4歳の男女児55名を抽出し、2年後に再度同様の方法で足部を計測した。研究項目は、足囲、甲足囲、下腿最小囲、足甲高、足長、足幅、身長、体重の8項目とした。

結果 1) 3~4歳幼児の2年後の足部計測の結果では、各項目の増加値の平均は、足囲17mm、甲足囲15mm、下腿最小囲12mm、足甲高5.5mm、足長15mm、足幅5mmで、性別による有意差は特に認められない。また2~6歳間では、各年齢毎の増加値に有意差はみられない。

2) 身長に対する足囲、足長の比は、2~5歳では女子より男子の方が大きい。加齢と共に男子の値は女子に比してゆるやかな減少傾向を示し、6歳前後で男女共ほぼ同様の値を示すようになる。

3) 足長に対する足囲の比は、女子より男子の方がやや優れた値を示すが、男女共加齢と共にやや増加傾向がみられる。

4) 足長に対する足幅の比は、男女ともほぼ同じ値を示し、加齢と共にわずかに減少傾向がみられる。

* 山本他：日本家政学会第37回大会発表要旨集、93(1985)